

〔書言字考節用集一  
〔和漢三才圖會六下野〕日光山野州河内郡始號

〔和漢三才圖會六下野〕日光山野州河内郡見釋書

〔南留別志二〕一二荒を補陀落とし、音にてよみて、にくわうといふを、日光とかき替へたるを見れば、ふるき事は考へ得がたき事おほかるべし。

〔類聚名物考地理十一〕二荒山 ふたらやま 日光山

いにしへは二荒をふたらと訓しを、慶長の頃に、東照大權現の宮柱ふとしき立しづもりませしより、御神のいさをしにちなみて、やがて日光に音をかりて、文字を書改められしより、黒髮山にさしむかふ、日のひかりもいちしろく、照りまさり給ふこと、なりにけり。

〔羅山詩集紀行〕二荒、倭訓近補陀洛、故僧勝道以爲山號、推稱觀音堅坐之地、二荒音轉、爲日光、故密宗者流以爲山名、推稱毘盧遮那之場、皆是奪掠剽竊之術也、識者奈何云々。

岩有飛瀧嶺有湖、我邦神跡占靈區、豈圖西域黠胡鬼、來此山中作野狐、

〔和漢三才圖會六下野〕日光山社 在河内郡○中

開山勝道上人 祭禮九月九日

勝道姓若田氏、當國芳賀郡人、早出塵、累鑽仰勝業、州有二荒山、峯巒峻峙、振古未有陟者、稱德帝時護景雲元年秋七月、勝道始企跋涉、路險雪深、不能升止山腹、凡經三七日而還、今歲又興先志、漸達于頂、衆峯環峙、四湖碧深、奇花異木、殆非人境、乃結小菴於西南隅、居數載、遂就勝處建伽藍號神宮寺、崇權現安丈六千手觀音像、盡二荒阿彌、今云補陀洛、以爲觀音之所坐、空海登山、改日光、以爲大日遍照之山、而後圓仁居住唱法華、遂爲天台、叡山座主兼帶爲寺務、元和二年祭祀東照神君尊靈於當山以來、滿山莊嚴、其美言語絕、

〔性靈集二〕沙門勝道歷山水瑩玄珠碑并序、沙門遍照金剛文并書、

蘇巔鷲巔異人所都、達水龍坎、靈物斯在、所以異人卜宅、所以靈物化產、豈徒然乎、請試論之、夫境隨